

## ジェイハンズ ②



山口雅也社長

ノベルティグッズとしていけると直感

日本中の人々が関西に注目していた。1970年に開催された大阪万博は入場者6422万人と、いう驚異的な盛り上がりを見せ、多くの人が京都を訪れた。空前の関西観光ブームの到来だ。「万博の時は豪気もよかつたですね。ですが、その後の石油ショックは大変で

社長

使える手づくりの箱や木製品など、京都らしい和小物を開発するが、すぐに真似されて類似商品が店先に並んだ。当時の日本はまだ著作権意識の低い国だった。

「アイデアマンで、家でもなにか考えてつくりていました。メモ帳に鉛筆差しが付いたものとか、ちょっとしたものなんですねけどね」と山口雅也現社長は笑う。しかし

業当時の工場のようす  
り、当然おみやげ  
もあり売れなく  
なりました」と創  
業者の山口宗見氏  
の妻・山口弘子さ  
ん(現会長)は話  
す。

企業、時代、ECOストーリー

# モノづくり モノがたり

# バブル後の苦境を救った「あぶらとり紙」

誰でも思い「くよな商品なら、すでに販売されているはずだし、売れるしないだろう。宗晃氏には潜在的に人が求めるものを作り出す才能と直感力があったに違いない。そして商品に対しての誇りがあった。真似をされても泣き寝入りせず、特許庁に意匠登録を申請し、生み出した商品の権利を守った。その後も宗晃氏のアイデアは尽きることなく、「ひな祭り菓子容器」や「和風グリーティングカード」など、ヒット商品が生まれる。手づくりで味のある和小物は京都を飛び出し、東京へ、全国へと認めている。病床の宗晃氏の指示を当時大学生だった雅也氏が受け、得意先や取引先を回った。「闘病生活は1年半。父を手伝う間に、仕事の引き継ぎができたようないい感じです。棺桶には父がつくりた商品をできるだけ入れて送ってやりました。ある時『つくりた物が残る商売はええなあ』としみじみ言っていましたから。享年50歳でした」妻の弘子さんが社長に就任した8年後、雅也氏が96年に代表取締役社長に就任する。「バブル後で厳しい状況でした。製作ロット数は減少していくのに、材料の値上げな

## 特許庁に申請した意匠登録

知度を上げていった。ある時、宗晃氏が妙な咳をしているのを友人の医師が気付いた。病院での検査結果は肺癌。宗晃氏は病気を受け入れ、闘病生活が始まつた。病床の宗晃氏の指示で、当時大学生だった雅也が受け、得意先や取引先を回った。

「闘病生活は1年半。それを手伝う間に、仕事の継ぎができるようになりました。棺桶には父がくつた商品ができるだけ入れて送つてやりました。ある時『つくった物残る商売はええなあ』しみじみ言つていましましたから。享年50歳でした」妻の弘子さんが社長に就任した。「バブル後96年に代表取締役社長に就任した8年後、雅也氏ロット数は減少していくのに、材料の値上げな

「ビデオストアは上がる。その一方で、ある商品に出会った。いわゆる、これを使つたノベルティグッズはいかがるんじゃないか」という直感が働きました」。  
苦境を救つたのは「あらひとり紙」だった。「あらひとり紙」だつた。

会社プロフィール…1963年に京都府綾部市で創業。現本社所在地は京都市下京区。社員数6人。創業時は京都みやげ中心の商品ラインナップだったが、跡を継いだ三代目・雅也氏の代になり、和のデザインを生かしたノベルティグッズ企画やネットショップ運営に力を入れる。楽天市場、ヤフーに〈京都 洛〉を出店中。「ちりめん」などの布を使った「貼り物」と呼ばれる工芸品の仕上がりの丁寧さや完成度は業界で有名。